



発行所
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
〒113-0034東京都文京区
湯島2-4-2全労連会館
国賠同盟岩手県本部
〒020-0013盛岡市愛宕町
17-4 牛山靖夫方
T/F 019-623-8648

拡大県理事会で方針と役員を決定

会長：牛山靖夫 副会長：庄子春治 事務局長：田中館安子

コロナのため7月29日、県大会に代え県拡大理事会で、2022年の方針と役員を決定した。日本共産党の中里隼一県常任委員、国民救援会の水戸正男県会長が来賓挨拶、牛山会長が会長挨拶と合わせ報告した（2面に要旨）。

役員には会長が事務局長を兼任してきた長年の体制を打開し、牛山、庄子、田中館の3役はじめ17人を下記の通り選出した（1名増。新人4名。女性7名）。

写真前列から左から田中館、中里隼一、水戸正男（来賓）、牛山、小杉正夫（顧問）、庄子（新、盛岡市議団長）、後列左から菊地靖（北上支部）、桜庭和男、渡辺よし子、鈴木まき子、安保進（新）、対馬範彦（新）、菅原栄美（胆江支部）。他に写真撮影の亀卦川仁と午後出席の鈴木満（新）。コロナと別の会議で欠席の伊藤慶子、金崎安子（釜石支部）、中村健、三田村亜美子の各役員の皆さん。（敬称略）

庄子、対馬の2人は新会員4人を迎えて出席し、早速新しい風を吹き込んでいます。

▼「時代も同盟も転換期」県本部会長 牛山靖夫 ▼「釜石支部の活動について」釜石支部長 金崎安子 ▼「石川啄木は大逆事件とう出会ったか」盛岡市 鈴木満 ▼「織田作品の根底にあるもの（3）」胆江支部長 穴戸春雄 ▼女性部学習会のお知らせ

鶴彬 秋のつどい

9月14日（水）

12:15～12:45

鶴彬墓所にて 献花・焼香

2022年 役員名簿

会長	牛山 靖夫
副会長	庄子 春治
事務局長	田中館 安子
常任理事	伊藤 慶子
	亀卦川 仁
	桜庭 和男
	鈴木 満
	対馬 範彦
	渡辺 よし子
	中里 隼一
	金崎 安子
	菊地 靖
	菅原 栄美
	安保 進
	鈴木 まき子
	中村 健
	三田村 亜美子
会計監査	藤村 敬吾
顧問	小杉 正夫
	宮脇 善雄



い。

四、請願署名、持続的に4千筆を

①次に岩手の署名は6月号の「不屈」で報告のとおり、目標4000筆に対し3155筆でした。達成率は78%で全国の27%に比べ断トツの1位です。

目標が全国30位と小さいからでもあります。署名数は8位、会員1人あたりの署名数は10筆で5位、前年より500筆以上増やした県は岩手など5県ですから大健闘と云えると思います。

大健闘というより、岩手の取組みは「誠実」なんだと思っています。岩手はコロナの前も10年来いつも目標を達成してきました。コロナの中でも釜石支部は5月の連休中も頑張り、有権者の1%を超える700筆に達しました。桜庭会員は協力者に訴え300筆を集めました。家族の4筆や5筆ですが、毎年確実に郵送してくる会員がいます。皆さんの努力には心から敬意を表します。

②署名活動は同盟活動の基本中の基本です。

署名活動は誰もがができる活動です。紹介議員を増やし、国賠法を実現するためには欠かすことのできない活動です。

ところが全国的には会員は増えても署名は減り続けている。

かつては40万を超えた時もありました。それが2016年は23.5万となり、以後毎年減りつづけ、今年は10万まで落ち込んでいます。達成率27%のまま自主目標をやりぬこうと呼びかけても進まない。ここが大問題です。

③岩手はどうか、4000筆を持続的にやりぬく体制を確立することが課題です。

者のたたかひの歴史と岩手の社会変革の歴史の2つを柱に学び語りつづことを重視してきました。この点が最初に強調した

「同盟ならではの活動」の原動力だと思います。

②井上ひさしの言葉に、難しいことをやさしく、面白くというのがあります。「不屈」の編集も弾圧の歴史や100年も前の話ですから工夫が必要です。

会員の読まれるものに、「不屈」の活用で会員を増やせるものにしたものです。

③その為にも、紙面を充実させるには各支部と会員の投稿を増やす必要があります。

六、最後に四つの行動提起

①映画「伊藤千代子」の上映が8月27、28日、奥州市と北上市で計画されています。

②全国女性交流集会在11月6、7日、熱海で行われます。今回は北上支部からの参加を要請します。

③東北ブロック交流集会在中断していますが、各県とも県役員が交代しているので、三役を中心に規模を縮小して開催することを検討しています。

④鶴彬のつどいを盛岡でも釜石でも行いましょう。



そのためには、これまでの成果の上にさらに署名を増やす対策が必要です。

- 一つ、胆江と北上支部に500筆をめざしてもらうこと、
- 二つ、久慈支部のように国民救援会との協力を強めること、
- 三つ、全県の地方議員にわがこととして

取組んでもらうように要請すること、

四つ、全会員の運動にしていこうことです。

五、学習顕彰活動 活動の源に

①学習活動は「知は力」「知るはよろこびなり」「たのしみなり」と云います。同盟活動の活力はエネルギーの源は学習にあると思います。

『治安維持法と現代』の学習会、伊藤千代子や多喜二、山宣、鶴彬の映画会、バスツアーや歴史散歩など多彩な形で学びの場を広げることが求められます。

②課題は「語り部」をどう継承するかです。釜石では艦砲の語り部千田ハルさんが亡くなりました。犠牲者の多田勇七さん、末永信治さんのことを語れるのは金崎安子さんだけです。

胆江では、矢野先生だけでなく誰が織田秀雄の事を語りつづかという問題があるでしょう。

③『新しき明日をめざして』をどう活用するかも課題です。各地域のたたかひの歴史と犠牲者の名簿をもとに研究してほしいと思います。

六、「不屈」岩手版の充実と活用

①岩手ではこの30年間、「不屈」の発行を中心に活動してきました。機関紙として同盟の方針と活動を載せるだけでなく犠牲

拡大理事会への文書発言

「釜石支部の活動について」

釜石支部長 金崎 安子

釜山・製鉄所があった釜石は闘いの歴史が詰まっている。が激動過ぎて当時の私は対応に苦慮した。釜石釜山、製鉄所の閉山、「大合理化」原発の廃棄物処分地問題等々…

2004年10月に11名で国賠同盟釜石支部を結成。釜石艦砲の語り部として2017年、女性文化賞を受けた千田ハルさんが初代支部長。（昨年9月98歳で亡くなられた）

今年で18回目となる国賠署名は32団体と715筆の署名だった。コロナ禍のなか、会員でない協力者17人の存在も大きかった。圧倒的署名数を一年に一回、国会請願に提出できないだろうかと時々考える。

これまで釜石支部で最高の署名を集めたのは2017年に初めて4桁の1007筆集めている。なぜ出来たか、73%の会員が署名に取り組み、協力者と団体にくり返し訴えたこと、同時に「治安維持法とは何か」を伝える上映会の成功だった。

小林多喜二の「母」（三浦綾子原作）の映画を4回上映し、500人の観客は感動した。（2017年5月23日）

今度の「伊藤千代子」もそういう機会を希望しただけで、同じ会場でもコロナ禍、入場者と時間制限もあり三回上映で1000人の観客に止どまった。機会をみて、又、上映会を企画したいと思っています。

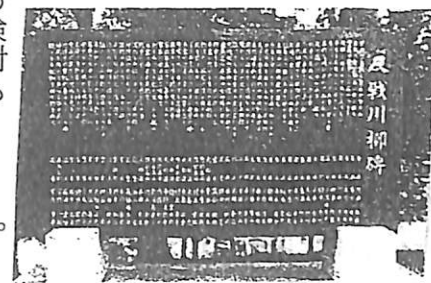
憲法違反の安倍政権の「安保法制」に反対し、2015年8



月30日にスタートしたスタンディングは今年7月28日で667回目となる。釜石駅前には、観光客、交通量もあるので注目される。悪天候以外、毎週木曜日、約一時間、あと一ヶ月で7年目に入る。

二度も艦砲射撃を受けた釜石。いまだに犠牲の数も名前も遺骨も不明な方が多いのに、国と行政、製鉄所等関係者は手を打とうとしていない。北上の都鳥兄弟が釜石艦砲射撃を記録映画にする取り組みをしている。千田ハルさんの意思を引き継ぎ、ふさわしい取りくみをしてほしいと思っている。

九月十四日は「鶴彬」の命日なので反戦川柳句碑のある遠野市の上郷に集まる検討も。



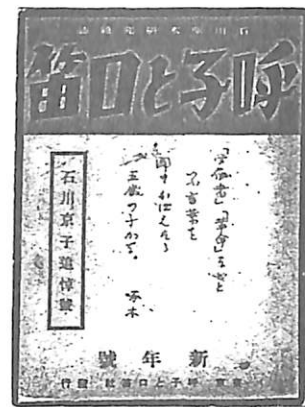
石川啄木は

大逆事件と どう出会ったか

盛岡市 鈴木 満

この春から文学仲間と石川啄木の読み直し学習会をしている。没後百年の区切りの年にちゃんと知っておきたいという動機からだ。

歌集「一握の砂」「悲しき玩具」から始めて、詩集「呼子と口笛」、評論「食くらふべき詩」「時代閉塞の現状」と読んで来て、啄木の印象が変わったという声が出てきた。知らない



詳しく事件の報に接したと思われるが、気持ちを示す日記がない。翌年(明治四十四年)の日記の末尾に「前年(四十三)中重要記事」と題して月にまとめたものを書いている。

「六月―幸徳秋水等陰謀事件発覚し、予の思想に一大変革ありたり。これよりボツク社会主義に関する書籍雑誌を聚む。(略)」とあり、さらに「十二月」の次に一年間の総括として次の文を書いている。

「思想上に於ては重大なる年なりき。予はこの年に於て予の性格、趣味、傾向を統一すべき一鎖(さ)鑰(やく)を發見したり。社会主義問題これなり。予は特にこの問題について思考し、読書し、談話すること多かりき。たゞ為政者の抑圧非理を極め、予をしてこれを發表する能はざらしめたり。」注「鎖(さ)鑰(やく)―錠前と鍵」

啄木の思想が社会主義になるに大逆事件が決定的であったとまとめているが、事件の直後の思いはわからない。短歌を見るしかない。未発表の短歌に次のものがある。

かかること喜ぶべきか泣くべきか貧しき人の上のみ思ふ
(明治四十三年六月日不詳 「啄木歌集」岩波文庫以下同じ)
「かかること」は大逆事件であろう。なぜ「貧しき人の上のみ思ふ」のだろう。この事件が貧しき人の身の上にかかわる予感がしたのである。

もう一首。「七月二十七日朝」と記された歌。
邦人(くにびと)の心あまりに明るきを思ふとき我のなか楽
します

啄木に触れ、啄木を見直したという人が多い。

特に「時代閉塞の現状」は、名前は聞いたことがあるが通読したのは今回が初めてという人が多かった。私は初めてではなかったが、通読したのは十年ほど前だ。その時は自然主義批判を厳しく展開する文学論として読み、文学を批評ととらえる啄木に強く惹かれる思いがしたものでしたが、その後、この評論が大逆事件に対する啄木の強い問題意識に基づいて文学の果たすべき任務は何かを問うたものであることを知って、啄木の見方が一変した。啄木の大逆事件に対する問題意識の中身を知りたい、啄木は何をどう考えたのか、事件の一報を聞いた時どんな気持ちになったのか、それを知る手掛かりはないか。

問題意識はサブタイトルに有った。(強権、純粹自然主義の最後及び明日の考察)と。小さい活字で括弧書きされたこのサブタイトルの「強権」を青年の敵として文学は戦って来たかを「時代閉塞の現状」は追求していた。「強権」とは何か。明示されてはいない。国家、天皇制の国家だとは明示されてはいないが、それでもこの論文が、「数日前本欄(東京朝日新聞の文芸欄)に出た『自己主張の思想としての自然主義』と題する魚住氏の論文」に対する反論の形で書かれていながら、編集部の検討の結果、掲載されなかった経過を見れば、読めば誰でも「強権」が国家、天皇制の国家の意であると読み取ることと、「強権」側も読み取る故に掲載は無理と判断したのであることが推察される。ここからも、「強権」の抑圧が新聞、言論活動に及んでいる現実、つまり「強権」を敵として戦わざるを得ない「時代閉塞の現状」が見える。

であれば、啄木は「大逆事件」をどんな思いで受け止めたのか。東京朝日新聞の校正係であった啄木は、いち早く、かなり

明るく過ごしていいのかといういらだちがある。予感といらだちが事件直後の啄木の気持ちだったのだろう。そして、「時代閉塞の現状」の直前、八月七日に東京朝日新聞に次の二首を發表している。

赤紙の表紙手擦れし国禁の書(ふみ)よみふけり夏の夜を寝ず
ことさらに燈火を消してまぢくと革命の日を思ひつづくる

―ここから「時代閉塞の現状」は遠くない。

織田秀雄作品の根底にあるもの(3)

胆江支部長 矢野 春雄

織田秀雄の左翼的活動

秀雄は教員時代に自ら勤務する学校を会場に「全国農民芸術連盟」の支部結成総会を開いた。かねて目をつけていた警察は学校はじめ秀雄の身辺捜査を行った。水沢警察署に留置され取り調べを受ける。これが機に教職を去らねばならなかった。

東京に出て「マルクス書房」に勤める。ここで戦後も活躍した進歩的な教育学者や童話作家など文化人との交流が深まる。この時期結成された「新興教育研究所」の結成にもかかわり研究員となる。責任者・山下徳治が別件の治安維持法違反で捕らえられると名目だろうが、織田秀雄が機関誌「新興教育」の編集・発行人となる。さらにその時期、簡読点呼のため一時帰郷。仲間が歓迎会を開く。およそ20人が集まったらしいが終わって、秀雄が中心の6人が人目を避けて山林で「岩手共人会」なる文芸団体を結成する。東京に帰った秀雄が手作りのニュースを作って仲間たちに送った。その中に次のスローガンが掲げられてあった。

- 一、私有財産制度の否認
- 一、〇〇〇〇の撤廃
- 一、労農政府の樹立

これを手にした警察は、岩手の共産党再建団体と勝手に決めて弾圧に乗り出した。ニュースを送られた人々をしらみつぶしに調べ上げた。これが「岩手共人会」といわれた治安維持法による弾圧事件である。

東京での「侵攻教育研究所」についても雑誌『新興教育』の読者を中心に治安維持法違反として全国的に弾圧を受けることになる。岩手は「教員赤化事件」(*『新しき明日をめざして』P 38参照)ともいわれる。秀雄はこれにもかかわっている。

織田秀雄の文芸活動

一方秀雄は前述のように、小説、短歌、詩、童謡などの創作、加えて民謡、民話、ヤロコ(子どものことば)の蒐集等盛んな文芸活動を展開している。(佐藤秀昭編『織田秀雄作品集』に収録されたものは108編に及ぶ)

人間の幸せのための活動と一体となって存在していたのである。勇ましい詩と優しい詩も一体となって創作されていたのである。学習が基本にあったことはもちろんのことである。

石川啄木も小林多喜二も優れた文学作品を残した。人間の幸せを実現させる革命的思想が優れた作品を創出した。織田秀雄も同じような文芸家であったと思われる。

秀雄の作品をさらに広め理解を深めなければならない。このまま埋もれてしまうことは社会文化の損失である。広めることは織田秀雄の顕彰でもある。治安維持法犠牲者織田秀雄の名誉



劇映画「わが青春つきるとも」 ～伊藤千代子の生涯～ 上映会

8月27日(土)奥州市文化会館
8月28日(日)日本現代詩歌文学館
(北上市)

①10:00～ ②14:00～

前売り・当日とも1000円 大学生以下無料

*共通チケットです。

プレイガイド

メイプル・COOPアテルイ・北上市さくらホール

問合せ先

080-1832-3312 (菅原) 090-8927-7640 (柏葉)

の回復にもつながる。この価値ある作品を広めて後世に残すことは私たちの課せられた仕事とされている。
(了)

劇映画「わが青春つきるとも」 ～伊藤千代子の生涯～

パンフレットができました！
700円

ご希望の方は田中館(090-9743-6123)迄

女性部学習会のお知らせ

コロナ感染拡大のため、7月と8月の学習会は中止しました。次回の学習会は、

9月20日(火) 13:30～15:30
勤労福祉会館201号室

「治安維持法と現代」2022年春号から